

Weekly Michael's News

<今週の聖句>

2018年11月19日発行 No.88

『その時、大天使長ミカエルが立つ。彼はお前の民の子らを守護する。その時まで、苦難が続く。国が始まって以来、かつてなかったほどの苦難が。しかし、その時には救われるであろう お前の民、あの書に記された人々は。』
(ダニエル書 12:1)

<ベトナムからの体験留学 Fall Study Program!! 1週間の体験入学はいかがでしたか…?>

先々週「KIU-BDU Fall Study Program2018」が開催され、ベトナムから5名の体験留学生を迎える事ができました。開会礼拝では不安そうな表情が垣間見られた留学生たちでしたが、様々なプログラムを体験する中で日本に強い関心を持ったのか、閉会礼拝では有意義だった1週間を振り返って「楽しかった!!」「またKIUで日本語を勉強したい!!」と具体的な願いを語ってくれました。外国人労働者に対する劣悪な対応が国会で問題になっていますが、キリスト教を土台とするKIUは、たとえ国や生まれが違っても一人ひとりの存在、神様から与えられたそれぞれの命を丁寧に受け止める姿勢を大切にしていきたいですね!! (^o^)/”マタキテネ~



ようこそKIUへ!! 聖歌も元気に なぜか中学生も一緒に記念撮影 学長より修了書を授与 また来てね!!

<大切な足跡を刻むために…。 50周年記念誌の編纂に尽力された2人に感謝状を贈呈!!>

今年度創立50周年という大きな節目の時に学院創立者である八代斌助師父の貴重な資料（しかも量が膨大!!）を整理し、資料集として一冊の本に纏め上げる作業を担われた佐藤信友さんと石原正彦さんに感謝状が贈呈されました!! 現在厳しさを増す状況の中で、特に私学は運営の見直しを迫られる所が少なくありません。しかしそのような中だからこそ、自分の足元にどのような理念があるのかをしっかりと踏まえる事、時代の波が激しさを増してもそれらに流されない普遍的なメッセージを持つ斌助師父の言葉を改めて心に刻みたいと思います。



石原主務には前田理事長から贈呈 佐藤さんへの感謝を表す近藤先生 本当にありがとうございました!!

＜先週のメッセージ＞

※ここでは実際に話されたお話の要約を掲載しています

11月12日(月) テーマ:「私たちの隣人(となりびと)」 野間 光顕(チャプレン)

私は学生の頃、1年間オーストラリアで生活した。そこではとても親切なオージーと出会って心癒されたが、一方で露骨なアジア人差別に直面し身の危険を感じた。同時に日本でも自分の気付かぬ所で同じ様に差別を受けている人がいる事を改めて考えさせられた。現在日本では人手不足を解消する為、外国人労働者に対する政策が国会で議論されている。そこで飛び交う言葉「移民政策は…」「難民が…」「即戦力となる外国人材を…」等に強い違和感を覚える。日本に仕事を求めてやってくる外国人はロボットではなく、同じ命を持つ一人の人間だ。それを物のように自己都合で消費して良いはずがない。今一度、最も小さな命を大切にしたいイエスの言葉を胸に刻み、KIUが掲げる「国際」に込められたメッセージを覚えつつ、自分の隣人に目を向けたい。

11月13日(火) テーマ:「言葉の洪水の中で」 野間 光顕(チャプレン)

先日、我が家に届いた学習塾のチラシに「中学受験をするなら音読をやめましょう」という一文があった。不思議に思って内容をよく読むと「音読を続けていると、読む速度が1分間に300文字を超えられない、これでは難関中学の入学試験で出る膨大な量の問題文を読みこなす事ができない…」という説明に強い違和感を覚えた。一方で、自分の周りを見渡せば、通勤電車内で見えるスマホや吊り広告、毎日発行される大量の雑誌に新聞など、言葉の洪水の中にいるように思うのは私だけだろうか? 同時に、その中で交わされる言葉に心を込めているだろうか? 聖書は、言葉は命であり、神であると説く。お互いをつなぐ「言葉」を大切にしたい。

11月14日(水) テーマ:「トータルボックスについて」 小林 俊博(リハビリテーション学部)

以前、我が家に滞在したハーバード大の学生から「トータルボックス(物事を成し遂げる時に必要なもの)について興味深い話を聞いた。例えば「街を作るにあたって最初に必要なのは?」と問われたら何と答えるだろうか? 多くの日本人はこの問いに「道路」や「電線」と答えるそうだが、その結果いつまでも道路工事が必要な街になってしまっている。ここで彼は「大きな地下道」と答えた。地下道は、荷物を運搬した後、下水道になり、電線やガス管を通す事もできるからだ。物事を始める時、何をどこから着手するかで結果は大きく変わるのだ。

11月15日(木) テーマ:「アフリカの子供たちに会いたい」 藤倉 哲哉(経済学部)

KIUは1999年から「Save the Children Project」と称してアフリカの難病ブルーリ潰瘍をサポートする働きを続けている。六甲アイランドのお祭りや市民クリスマスなどでもアピールを行い、献金を集めて現地に届けてきた。実際にアフリカを訪れると、子供たちの屈託のなさに驚かされる。同時に子供たち、また育てる大人たちの置かれている環境の厳しさも痛感させられた。資金のサポートが求められるのは当然だが、KIUだからこそできるサポートに目を向けた時、学会やシンポジウムを通してこの働きや病気の存在を広く知らしめる事に可能性を感じている。この週末に学会が、12月にもコンサートが行われる。ぜひ参加してほしい。

11月16日(金) テーマ:「見よ!!」 野間 光顕(チャプレン)

最近「見よ!!」と書かれたポスターがKIU内に掲示されている。入試広報の作成した大学の動画に関する告知だが、これを観るとこれまで意識してこなかったKIUの新たな一面を発見できる。「少し上手く撮れ過ぎ…」と思った人、事実KIUにはたくさんの留学生がいるし、多岐に渡る留学プログラムや豊富な経験や知識を持つ魅力的な教授陣によるサポートで、世界への繋がりや可能性は無限だ。少し見方を変える事で、今まで見えなかった神からの恵みや自分が享受している豊かさに気付く事ができるのではないだろうか? (文責:野間 光顕)